

「のぞいてみよう 流通の世界」-14 まち歩きに出かけよう

通科学大学商学部 秦 洋二

さあ、今日は休日。天気も良いし、どこかに出かけたいですね。こんな時、三宮は絶好のお出かけスポットです。神戸と聞けば「おしゃれな街」とか「美味しいパン屋がたくさんあるところ」といったイメージが浮かぶ人も多いと思います。神戸市は兵庫県の県庁所在地であり、県内唯一の政令指定都市です。関西圏でも指折りの大都市ですが、三宮・元町はその神戸最大の繁華街です。そごうやマルイ、大丸などの百貨店があり、JR だけでなく阪神電車や阪急電車などの私鉄各線や地下鉄の駅も集まっています、県内はもとより関西一円から多くの人が訪れます。

折角ですから今日はちょっと色々な視点から街を観察してみたいと思います。観察などというとなかなか聞こえるかもしれませんが、普段何気なく見ていたものについて「なぜ、このようになっているのだろうか？」などと考えながら歩くということだと思ってもらえれば結構です。

最初に三宮センター街に行ってみようと思います。三宮センター街は、JR、阪神、阪急各線の三宮駅の南側にあるアーケード街です。幸い今日は晴れていますが、屋根が付いているお陰で、雨の日でも濡れずに歩くことができとても便利です。三宮センター街が誕生したのは戦後まもなくの 1946 年のことです。古くからこのあたりで商売をしていた人達が集まって新しいショッピングセンターを作ろうとして、三宮センター街が誕生しました。

早速三宮センター街を歩いてみましょう。お洒落なファッションブランドのお店が建ち並んでいますね。有名どころでは、UNIQLO や GAP、ZARA などがあります。カジュアルブランドだけでなく、高級ブランドを含むバッグや靴、時計の専門店も見つけることができます。ファッション関連のお店以外では、ジュンク堂などの大型書店も目につきます。よく見ると喫茶店や天ぷら屋さんなどの飲食店もあります。

三宮センター街の街路は、綺麗に舗装されていて歩きやすく、道幅も大勢の人が歩いても十分な広さです。それぞれのお店の店員さんは、お客さんがお店の商品を見ていたりするとにこやかに近づいてきて、色々説明してくれます。

ここに来る方法にはちょっと注意が必要です。車で来ても駐車する場所を見つけるのは難しいです。それに、駐車場の料金もよその地域に比べると高めに設定されています。三宮には電車や

コラム-1「商業集積」

商業集積とは、商店街やショッピングセンターなど、多くの店舗が集まっているところのことです。様々な店舗が一カ所にあることで、単独の店舗では不可能な、多様な品揃えを地域全体で形成することができます。消費者にとっても、一度に色々な商品を選ぶことができ便利です。

バスなどの公共交通機関で来る方が便利そうですね。

図表-1 三宮センター街の写真



出所：筆者撮影

三宮センター街からもう少し足を伸ばしてみると、さらに色々と興味深いスポットに行くことができます。南京町（なんきんまち）はその一つです。南京町は、JR 元町駅から少し南にくだったところにあり、日本三大中華街の一つに数えられています。三宮センター街から歩いて 10 分程度で行くことができます。大きな楼門をくぐると、それまでと景色が一変、道の両側には中華料理店や中華食材を扱うお店が並んでいます。そしてそれらのお店の前には露店があって、お店の人の元気な売り声が聞こえます。南京町を歩いていると、すぐに店員さんから「どうぞ、中は席が空いていますよ」とか、「美味し

コラム-2「景観」

景観という言葉は、日常的には景色や風景と同じ意味で使われています。学術的にはドイツ語の *Landshaft* の日本語訳で、視覚で捉えられる地表面の様子のことです。人間によって生み出された文化景観と、自然のありのままの姿である自然景観に大別されます。

いよ！お一ついかが？」などと気さくに声をかけられます。美味しそうな中華料理の香りも食欲をそそります。

南京町の歴史は古く、明治時代のはじめに神戸港が開港した頃に誕生したと言われてい
ます。当時、日本にやってきていた中国人の人達が豚肉店や飲食店などを開くようになったのが、その始まりだそうです。その頃の南京町は、その近くに住んでいる人たちにとってまさに台所の代わりのような場所でした。

南京町がほぼ今のような形になったのは1970年代にこの付近一帯が神戸市の区画整理事業の対象になってからです。それから、南楼門と長安門の二つの門が建設され、1980年代に入って、中央広場の「あづまや」が作られました。色々な設備が少しずつ作られて、今の南京町の街並みができていったのです。南京町の異国情緒に惹かれて、多くの観光客が訪れるようになりました。

南京町には他の場所にはない独特の雰囲気がありますが、それは建物や設備だけで生みだされているわけではありません。様々なイベントも南京町の雰囲気作りに一役買っています。1987年からほぼ毎年開催されている春節祭は、南京町にとって欠かせない重要なお祭りになっています。春節とは、中国の旧暦の元旦のことです。日本では元旦と言えば一月一日のことで、それから三日間を三が日と呼んでお祝いしますが、中国では日本の三が日より旧暦の元旦の方が重要なのです。旧暦の元旦は、暦の上での正月と違って毎年日にちが変わります。そのため、南京町の春節祭もそれにあわせて毎年開催時期が異なりますが、おおむね1月の中旬から2月初旬にかけて行われます。春節祭のメインイベントは

図表-2 長安門の写真



出所：筆者撮影

京劇という中国の古典演劇の衣装やメイクで着飾った人達のパレードです。龍の御神輿も登場します。これらを見ていると、まるでここが日本ではないみたいです。

さて、三宮センター街と南京町、二つの街並みを眺めてきました。どちらも位置的にはとても近くにあって、たくさんの方が訪れることでは共通していますが、ずいぶんと雰囲気は違ってきますね。では、この雰囲気の違いはどこから出てきているのでしょうか。ちょっと考えてみてください。まず目に付くのは、建物のデザインや道の舗装の仕方、看板などでしょうか。一つ一つの店のかたちやデザインが組み合わさって、異なる雰囲気が作られています。

建物や道路といった環境だけでなく、三宮センター街と南京町では、お店の人も違ってきます。南京町のお店には中国の人が多く、三宮センター街のお店の人とは服装や立ち振る舞いも異なります。南京町では中国語でおしゃべりしている店員さんをみかけることもあります。場所が違えば生活者も異なるというわけです。

それから、三宮センター街と南京町では売っているものが全然違ってきます。三宮センター街では、お洒落な洋服や時計、アクセサリなどが売られていました。これらの商品を売るお店が揃っていると、街全体が都会的で洗練された感じになります。それでは、南京町ではどのような商品が売られていたのでしょうか。鞆や靴を売っているお店は南京町にはありません。南京町に多いのは、饅頭やちまきなどの中国の食べ物を売っているお店か、中華料理店です。南京町で売られている商品から感じられるのは、やはり異国の雰囲気です。実際に行ってみたことはなくても、南京町に来るとちょっと日本の他の土地とは違った印象を持つはずです。

売っているものが違うということは、そこに来る人の目的も違っていているということです。三宮センター街に来る人は、洋服や鞆、靴などを求めています。でも、洋服や靴は一度買うとある程度の期間使うことができますから、余程ファッションが好きな人でなければ、購入の頻度は高くありません。月に一度、あるいはワンシーズンに一度か二度ぐらいという人も多いのではないのでしょうか。買い物する回数が少ない商品を買うときには、慎重に品定めをしなければなりません。色々なお店を回ってデザインを見比べたり、お店毎の価格を調べたりしたくなるでしょう。三宮はお店がたくさんあるので、あちこち見て回るという買い方をするときには大変便利であることに気がきます。

南京町には、たくさんのお店屋さんがいます。ですから、なんと言っても南京町に来る人の目的は食べることです。いろいろなお店の中から自分の気に入ったお店を選ぶことができます。露店をめぐって、食べ比べするのも楽しいですね。

私たちの周りには、注意して観察すると面白い場所がたくさんあります。あなたが当たり前だと思っているものが、違う人から見ると変わっていると感じられるところがいっぱいあるのです。街を歩きながら、普段だったら見落としてしまいそうな色々なことを注意

して観察してみてください。

街の観察ではいくつか小道具があると便利です。特別な道具でなくても、たとえば、地図やカメラ、メモ帳、ペンやマーカーなどがあれば十分です。色々な気づきをメモしたりスケッチしたりしておけば、それをもとに後で図書館やインターネットでさらに深く調べることができます。地図を持っていくのもおすすめです。歩いている最中に面白いものを発見したら、どこでそれを見たのかを地図に書き入れておきましょう。後で見直した時に、その時の様子を簡単に思い出すことができます。カメラでその時の情景を写真として残しておくのもいいですね。

私たちが普段何気なく過ごしている場所でも、好奇心を持って観察すれば新しい発見があるものです。今度の休みは、今までとちょっと気分を変えて街歩きにでかけてみてください。

コラム-3 「フィールドワーク」

フィールドワークとは、ある地域を対象とした現地調査のことです。自分自身の興味関心や研究のテーマに沿って調査対象地域を決定します。地域の様子を観察するだけでなく、資料を集めたり、そこにいる人に話を聞いたりすることで、地域に対する理解を深めます。